

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成19年2月1日(2007.2.1)

【公表番号】特表2003-523739(P2003-523739A)

【公表日】平成15年8月12日(2003.8.12)

【出願番号】特願2001-553387(P2001-553387)

【国際特許分類】

C 12 N	15/09	(2006.01)
A 61 K	31/711	(2006.01)
A 61 K	31/7115	(2006.01)
A 61 K	31/712	(2006.01)
A 61 K	31/7125	(2006.01)
A 61 K	48/00	(2006.01)
A 61 P	3/04	(2006.01)
A 61 P	3/10	(2006.01)
A 61 P	35/00	(2006.01)

【F I】

C 12 N	15/00	Z N A A
A 61 K	31/711	
A 61 K	31/7115	
A 61 K	31/712	
A 61 K	31/7125	
A 61 K	48/00	
A 61 P	3/04	
A 61 P	3/10	
A 61 P	35/00	

【手続補正書】

【提出日】平成18年12月6日(2006.12.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】PTP1Bをコードする核酸分子を標的とする配列番号164-173の1つを含んでなる30核酸塩基長までのアンチセンス化合物であって、PTP1Bに、特異的にハイブリダイズしそして発現を阻害する、上記化合物。

【請求項2】アンチセンスオリゴヌクレオチドである、請求項1に記載のアンチセンス化合物。

【請求項3】アンチセンスオリゴヌクレオチドが、配列番号：164、165、166、168、169、170、171、172または173からなる配列を有する、請求項2に記載のアンチセンス化合物。

【請求項4】アンチセンスオリゴヌクレオチドが少なくとも1つの修飾されたヌクレオシド間結合を含んで成る、請求項2に記載のアンチセンス化合物。

【請求項5】修飾されたヌクレオシド間結合がホスホロチオエート結合である、請求項4に記載のアンチセンス化合物。

【請求項6】アンチセンスオリゴヌクレオチドが少なくとも1つの修飾された糖部分を含んで成る、請求項2に記載のアンチセンス化合物。

【請求項 7】 修飾された糖部分が 2'-O-メトキシエチル糖部分である、請求項 6 に記載のアンチセンス化合物。

【請求項 8】 アンチセンスオリゴヌクレオチドが少なくとも 1 つの修飾された核酸塩基を含んで成る、請求項 2 に記載のアンチセンス化合物。

【請求項 9】 修飾された核酸塩基が 5'-メチルシトシンである、請求項 8 に記載のアンチセンス化合物。

【請求項 10】 アンチセンスオリゴヌクレオチドがキメラオリゴヌクレオチドである、請求項 2 に記載のアンチセンス化合物。

【請求項 11】 配列番号 166 の配列を有する、請求項 1 に記載のアンチセンス化合物。

【請求項 12】 配列番号 166 のヌクレオチド 1 - 5 及び 16 - 20 が 2'-O-メトキシエチルヌクレオシドであり、ヌクレオチド 6 - 15 が 2'-デオキシヌクレオチドであり、全てのシチジン残基が 5'-メチルシチジンであり、そして全てのヌクレオシド間結合がホスホロチオエートである、請求項 11 に記載のアンチセンス化合物。

【請求項 13】 請求項 1 から 12 のいずれかに記載のアンチセンス化合物および製薬学的に許容されるキャリアまたは希釈剤を含んで成る組成物。

【請求項 14】 さらにコロイド状分散系を含んで成る、請求項 1_3 に記載の組成物。

【請求項 15】 医薬として使用するための、請求項 1 - 12 に記載の組成物。

【請求項 16】 糖尿病、肥満、ガンまたは高増殖性障害を処置するための医薬の製造における請求項 1 - 12 に記載の化合物の使用。

【請求項 17】 P TPP1B の発現を阻害するように細胞または組織を請求項 1 - 12 のいずれかに記載のアンチセンス化合物と接触させることを含んで成る、インピトロで細胞または組織中の P TPP1B の発現を阻害する方法。